

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100514		
法人名	社会福祉法人 みつき福祉会		
事業所名	グループホームひさご苑 2F		
所在地	島根県松江市浜佐田町125		
自己評価作成日	令和6年2月3日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和6年2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を豊かな自然に囲まれ、四季の移り変わりも感じられ、隣接する保育園からは元気に遊ぶ子供たちの姿を目にすることができます。コロナ禍前は誕生会、夏祭り、敬老会、クリスマス会などで園児との交流も積極的に行っていました。又、当苑でも敬老会などの恒例行事や季節の外出、入居者様の誕生日には、プレゼントを用意しお祝いさせていただいております。入居者様とのふれあいを大切にして、たくさんの笑顔が見られるように職員一同頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の一画の自然豊かな場所にあり、隣には保育所、同じ建物に乳児院がある。コロナ禍前は盛んだった交流は今も尚難しいが、窓からは子供たちの様子が見え、元気な声が聞かれるいい環境にある。保育所があることから特にコロナ感染には注意をはらい、5類になってからも消毒や換気等の対応を続けている。今年になり利用者2名のコロナ感染者が出たが、ほぼ症状無く短期間で収束している。ここ数年職員の入れ替わりが続き雇用の確保が難しく、定員減での運営が続いているが、就職説明会に参加したことで雇用に繋がっている。重度の方の特老への入所など利用者の入れ替わりもあり、平均介護度は軽くなっており、刺激の少ない生活を少しでも楽しいものに行事食を工夫したり、レクを充実したりと検討を続けている。今後も雇用を確保することで安定した経営に繋がるようにすると同時に、職員個々の資質の向上を目指していただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口や各ユニットの詰め所に、理念を掲示している。新人職員や理解出来ない職員には、会議等に理念についての説明や話し合いの機会を設けている。	開所当時に作成された理念を継続しており、新しい職員には管理者より最初に説明するとともに、主になる指導者を決め、一緒に業務する中で考え方を伝えるようにしている。理念は事務所の見えやすい場所に掲示し、共有に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症流行の為、直接会う機会はないですが、文書や会報での交流を行っている	コロナ禍で中止していた地域行事が少しずつ戻ってきており、昨年秋には地元コミセンから祭り開催の知らせを受けたが参加できなかった。施設の便りは近隣にポスティングしたり、会議参加者に配りお知らせを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策の為、外部との交流を制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を検討しサービス向上に活かしている。	昨年より集合して定期に開催している。民生委員、町内会長、交番所長、公民館長、保育園園長の他、行政からも参加を得て行っている。利用者状況や施設の様子を伝え、質疑応答に繋げており、毎回多くの意見が聞かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員の実地指導を受け、改善するように努めている。わからない事や困った事がある時は、担当者や運営会議の機会に助言いただいている。	運営推進会議には毎回、介護保険課や包括からの参加があり、専門的立場から助言を得ている。生活保護担当課からは年に1回訪問があり、利用者状況を伝えるなど情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。職員会議の際に、身体拘束などの適正化の対策検討会議を行っている。	身体拘束の委員会を定期に開催。センサーマット使用者について毎回検討を行っている。保育所を併設していることもあり、不審者対応の必要性からグループホームも玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士虐待が無いように注意している。声かけ(暴言)にも注意している。気になるアザは、記録して報告書を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用する利用者が一人おられるが、他の家族に対する対応と大きい変化はあまりない為、特に困惑している場面もない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、入退所や重度化、改定を含めた十分な説明を行い、理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には毎月担当職員がお手紙を書いて出している。又、面会時に問いかけや相談、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	ひさご苑便りは6か月に1回。利用者には個人個人の写真入りの便りを毎月作成しており、担当から様子を伝える文章を添えて送っている。電話や面会時には日頃の様子を話しており、合わせて意見をを得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長(代表者)は、他事業所と兼務している為、当苑にほとんど来ない。職員の要望は施設長が理事長に伝えている。	管理者は定期的な面接は行っていないが、必要性を感じた時は個人的に面談するようにしている。職員会議の際にも意見が出やすいように配慮している。出た意見は管理者から理事長に伝え、業務に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が職員の努力や実績、勤務態度を見て、理事長に報告している。それにより理事長が評価を行う。勤務態度に問題のある職員には、指導して改善を求めている。(理事長に報告している)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはできるだけ参加するようにしている。研修後は、研修報告書を作成して職員に観覧出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会には参加していたが、現在は部会が行われず、行われたとしても参加が難しい状態。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様に会って心身の状態や思いに耳を傾ける様にして安心感を得られる様にしている。又、必ず施設見学していただき施設の雰囲気を感じていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況、要望等をゆっくり聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に職員が利用者様、家族様に面会し本人や家族の思い、状況等を確認し必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るように、場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子や職員の気づきを伝え、家族様の思いにも耳を傾けている。本人様を支えて行けるように協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れない様に面会の依頼をしている。又、馴染みのある場所へのドライブし町の移り変わりを見て、懐かしい話をしていただいている。	出かける機会はなかなか持てない為、地元の映像や昔の映画や昭和歌謡など、懐かしく感じるものが見られるようにしている。市内の名所を職員が動画に撮るなどして思い出す機会としている。女性ばかりのため定期的理美容も楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係、心身の状態等を把握し職員が情報を共有している。利用者様同士の関係が、上手くいくように職員がいろいろな場面、活動を通じて調整役になり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、情報提供を行っている。家族様にも電話等で様子を聞く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、ご家族様から暮らしの希望、意向を確認している。日々の関わりの中でも、把握に努めている。	普段の会話の中から思いを聞くようにしているが、難しさを感じており、真意については想像する場合もある。出た言葉や表情などは個々のケース記録に書くようにして計画作成に繋げている。	残存機能を活かし、よりよい個別計画の作成に繋げていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、フェイスシート等記入してもらっている。本人様、家族様、親類の方にも暮らしぶりを聞き、情報提供も依頼して情報収集している。入所後もアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人一人の生活のリズム、心身の状態、有する力を行動等から把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様に、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させる様にしている。主任・担当職員・家族交えケアプランを作成している。	モニタリングを6か月に1回まとめている。コロナ禍の為利用者や家族関係者の参加で担当者会議はできていないが、電話や面会時に意見を聞き反映するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者様の状態変化は、記録して職員間で情報の共有化を図り、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の状況に応じて通院等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の希望に応じて、訪問理美容サービス等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様が希望するかかりつけ医になっている。通院は、基本的に家族様であるが、急変時や状況により職員が付き添っている。	入所前のかかりつけ医を継続することも協力医に変更することも可能。定期的な往診を受けることができおり、急変時等にも指示が得られるようになっている。月1回訪問看護の利用もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は在籍していない為、月一回の訪問看護契約を結び、本人様の体調変化に応じて状態を報告、相談し適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に対して本人様に関する情報を提供している。職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方に事業所で出来る事を説明しており、本人様の状態を見ながら家族様や主治医と相談して、対応している。	設備面や職員体制の面も不十分な為看取りは行っておらず、入所時に説明している。介護度だけではなく、重度化に応じて特老の申し込みを薦めている。その都度関係者で話し合いの機会を持ち、スムーズに移行できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを整備してある。緊急時は、主治医や医療機関への連絡、報告をして指示を仰ぎ連絡網を通して職員間でも連絡を取り迅速に対応している。応急手当の能力に不安が残る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消化器の使い方等の訓練をしている。消防担当職員や交代で職員も研修している。毎日、【防火確認チェック表】にて確認している。地域消防団にもお願いしている。	自然災害には遭い難い場所の為、火災対応を主に訓練を行っている。隣に保育所がある為屋間の支援体制はあるが、夜間はグループホームだけになるので、昼間と夜間に分け実施している。年に1回は隣の保育所と合同でも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の生活歴を把握し、その人の人格を損なわない様にしている。その方の気持ちを尊重し介助する事を心がけている。	上から目線の言葉がけなど、気が付いた時には注意をしたり、身体拘束や虐待、接遇を含めて研修を行っている。コロナ禍で外部者との関わりが少ない為、なれ合いにならないよう電話対応の際の言葉使いには注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人一人の生活歴を把握し、希望、関心、嗜好を見極め、それをレクリエーションや日常生活に活かすように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午後の飲茶後にレクリエーションや体操を行っている。気分が乗らない方は、声かけはするが気持ちを優先しています。外出レクは事前に日にちを伝え準備をお願いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の着たい洋服など、入浴準備の際と一緒に選んだりしている。起床時、午睡後などは洗面で鏡を見ながら身だしなみを整えられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理職員により、朝・昼・夜と手料理を提供している。	調理担当の職員を雇用しており3食作っている。女性ばかりで調理に関わることが好きな方には、野菜の皮むきなどできる作業を手伝ってもらっている。誕生日には好物、敬老会などの行事には合わせた食事を作るなど、食べることを楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、利用者様の食事・水分摂取量を記録している。入浴後は必ず水分補給している。食事は、個々の嗜好や状態を考慮し食べやすいように形態も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせて、毎食後洗面所で歯磨きやうがいをして頂いている。自身で困難な方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を見計らい誘導している。トイレでの排泄を尊重し、紙パンツやパット類も本人様に合っているか職員間で話し合っている。	紙パンツにパットの使用者が多いが、紙パンツのみの方や布パンツの方もいる。自立の方、時間を見て声掛けが必要な方など、個々に合わせた対応としている。便秘の方には食事、水分量などにも配慮してスムーズな排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表、水分摂取表を記録し十分な水分補給を提供している。又、牛乳やヨーグルト、果物等工夫し、毎日の食事に合わせて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴日は決めている。利用者様の体調や気分に合わせて入って頂いている。	週2回は入れるように調整している。やや大きめの家庭浴槽のため、中に入れない方はシャワー浴対応としている。入浴嫌いの方には曜日を定めず、毎日声がけして入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のペースを尊重しながら、体調、希望等に考慮し、なるべく日中の活動を高める様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬・効能・副作用の説明等、ケースファイルに保管し、全職員に分るようにしている。処方量変更時は、ケース記録や連絡ノートに記入し職員確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯物たたみ、裁縫、掃除等の得意分野での力を発揮してもらっている。家族様にも、本人様の好物の差し入れをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク係りが外出・ドライブの計画している。季節の外出や地域のお祭り等。担当職員と喫茶での飲食もしている。保育所へのイベント参加もしてる。	コロナ禍で外出の機会は減っているが、数人ずつドライブに出かけている。普段は2Fのベランダでお茶したり、1Fは外の畑の作業を見に出たり、外気に触れる機会を多く持つようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時や本人様から訴えがある場合家族様を交えて話し合いしている。所持される場合は、プライバシーを侵害する理由から所持金の管理は、行っていないが、その際は家族様から承諾を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が季節に合わせて、ホールの飾りつけをしている。廊下の壁にも写真を貼り、入居者様同士や職員を交えて鑑賞できるようにしている。居室の温度調節やカーテン等で光の調節している。	同じ建物に乳児院、隣に保育所があり、屋間はいつも元気な子供たちの声が聞こえている。施設裏は以前ゴルフ場だった為、緑豊かで自然の変化を感じられる。ダイルームには畳の部分があるがあまり使用していない。季節に合わせた飾り付けや行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の人間関係に気を使い、席を決めている。1階・2階の利用者同士の交流も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れや使い慣れた家具を持ち込んでもらってる。本人様の大切な物等、自由に持ち込んでもらっている。室内にも、外出やイベントでの写真を貼り面会時の話題になる様にしている。	大きいクローゼットがあり収納ができるため、あまり多くの物が置かれていない。イスや衣装ケース、テレビ等が置かれたり、夫や家族との思い出の写真を目に付く場所に飾る方が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体状況に合わせ、物の配置に配慮したり、混乱されない様に必要な目印をつけ環境面で工夫している。		